

■今年度の活動内容設定時に参考とした「他校の環境に関する取組」					■今年度のグリーンカーテン実施状況 (朝顔、ゴーヤ、ヘチマなど) □実施した ■実施していない	
取組 テーマ	取組目標	具体的な活動内容	担当者	活動 主体	取り組んだこと、その実績	1年を振り返って
ビーチクリーンの推進	SDGs 14番 「海の豊かさを守る」活動の実践	1 総合的な学習の時間 プロジェクト型探究学習 プロジェクト名： 湘南ビーチクリーンプロジェクト 「サザンビーチのごみ問題」に焦点をあて、現状・取組み内容・活動報告・課題を発見し、校内、校外へと発信する。そのために、目的別に班に分かれ、活動を実践していく。	5年4組担任	5年4組児童 保護者 関係機関	1 5年4組 総合的な学習の時間 身近な自然環境である茅ヶ崎の海をきれいにするために自分たちにできることを考え、サザンビーチのごみ拾いを行った。予想以上に多くのごみが落ちており、特にマイクロプラスチックが多いことに児童は驚いていた。マイクロプラスチックが海の生物に及ぼす影響などについて学び、ビーチクリーン活動の意味や意義を実感した。活動後には、学習成果を校内で発表するとともに、校外で動画配信を行った。児童の環境への意識や、ごみを減らす・分別するなど、日常生活での行動に変化が見られた。	【取組の評価】 ■達成できた □ほぼ達成した □達成できなかった 【理由】 ・身近な環境に自分なりのアプローチで働きかけ、現状を実感するとともに、自分たちが今できる意識や行動に結びつけることができた。 【今後の課題】 ・環境問題への意識を今後も持ち続け、当たり前のこととして継続的に行動することや、環境問題への新たなアプローチの探究活動につなげていきたい。 【次年度への引継ぎ事項】 ・取組みの成果と課題を生かして、次年度、6年生としての探究学習や授業づくりに発展させていく。
資源の再利用や廃棄物の削減への取組み	ごみの分別の必要性やその方法、茅ヶ崎市におけるごみ処理について意識を高め、自分にできることを考え実践する	1 社会科 ごみ処理やリサイクルのしかたについて、施設見学や、施設職員から話を聞き、ごみの減量化や節約の大切さを学ぶ。	4年各担任	4年児童	1 4年 社会科 環境事業センター職員の方から、パッカー車の仕組みや茅ヶ崎市のごみの収集・処理の方法、資源物の分別、生活環境の保全や公衆衛生の大切さなどについて話を聞き、体験を通して学んだ。家庭を含めた日常生活でのごみの減量化や分別について、児童の活動が広がり、意識が高まった。	【取組の評価】 ■ 達成できた □ ほぼ達成した □ 達成できなかった 【理由】 ・児童の発達段階に応じて、他教科等での学習活動と関連付けながら、身近な環境に自分なりのアプローチで働きかけ、現状を実感するとともに、自分たちが今できる意識や行動に結びつけることができた。 【今後の課題】 ・環境問題への意識を今後も持ち続け、当たり前のこととして継続的に行動することや、環境問題への新たなアプローチの探究活動につなげていきたい。 ・委員会活動については、年間の活動時間が短いこともあり、全校児童へ繰り返し啓発を行う新たな活動（エコ活動強化週間・月間の設定、校内放送等での繰り返しの呼びかけなど）を展開できるとよい。 【次年度への引継ぎ事項】 ・取組みの成果と課題を生かして、次年度の探究学習や授業づくりに発展させていく。
		2 総合的な学習の時間 学校内や学区内の清掃活動を通して、ごみの適切な処理や廃棄物の削減の大切さを実感するとともに、自分たちにできることについて考える。	5年2組担任	5年2組児童 保護者	2 5年2組 総合的な学習の時間 学校内や学区内の清掃活動を通して、予想以上に多くのごみが不適切に捨てられていることに気づき、身近な環境への児童の意識が高まった。資源の再利用や廃棄物の削減を呼びかけるため、児童の発案でポスターの作成・掲示を行った。ごみを削減し、分別等を適切に行うなど、日常生活での行動に変化が見られた。	
		3 委員会活動 清掃時間におけるごみの分別の徹底及び資源物の回収を全校児童に呼びかける。	エコ・リサイクル委員会	エコ・リサイクル委員会	3 委員会活動「エコ・リサイクル委員会」 委員会児童より全校児童へ向けて、ごみを正しく分別すること、資源物を回収すること、再利用に努めることなどについて呼びかけを行った。	

(様式1) 学校エコ活動シート

省エネの推進	学校生活の中で省エネを推進する活動の実践	1	家庭科 「夏を涼しく爽やかに」の学習を通して、自然環境を生かして快適に過ごす方法を考え、実践する。	6年各担任	6年児童	<p>1 6年 家庭科「夏を涼しく爽やかに」リデュース・リユース・リサイクルなど、省エネや節電につながる具体的な行動について話し合い、エアコンや扇風機などを使わずに「涼しく感じる方法」について考えた。</p> <p>2 委員会活動「エコ・リサイクル委員会」 委員会児童より全校児童へ向けて、「自然を大切に使う気持ちをもとう」「節電・節水を推進する気持ちをもとう」などの呼びかけを行い、ポスターを作成・掲示するなどの啓発活動を行った。</p>	<p>【取組の評価】 <input type="checkbox"/> 達成できた <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リデュース・リユース・リサイクルや節電・節水などについて調べ、自分たちが無理なく続けられる行動や工夫を考えることができた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員会活動については、年間の活動時間が短いこともあり、全校児童へ繰り返し啓発を行う新たな活動（エコ活動強化週間・月間の設定、校内放送等での繰り返しの呼びかけなど）を展開できるとよい。 <p>【次年度への引継ぎ事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動実績を引き継ぐとともに、児童のアイデアを生かし、実践を積み重ね展開させていく。
		2	委員会活動 節電・節水・リユースなどについて学び、全校児童へその大切さを呼びかける。	エコ・リサイクル委員会	エコ・リサイクル委員会		
自然を大切に する心の育成	動植物の観察・飼育・栽培を通して、児童に「自然を大切に する心」を育てる	1	生活科・理科 動植物の観察・飼育・栽培を通して、生き物の生態や仕組み、成長の様子などについて学び、自然を大切に する心を育てる。	1～6年各担任 仲よし級各担任	1～6年児童 仲よし級児童	<p>1 生活科・理科 動植物の生態や仕組み、成長の様子などについて学ぶ中で、生命の神秘を感じたり、生存戦略の巧みに驚いたり、多様な生き物が息できる自然環境を守ることに大切さに気付いたりするとともに、自然環境を保つために自分たちにできることについて考えた。</p> <p>2 3年 総合的な学習の時間 不耕起栽培（自然農法）に向けた土壌づくりや、大豆の栽培・収穫に必要な作業などについてレクチャーを受けるとともに、実際に大豆を栽培し成長を実感しながら学んだ。また、「ふるさとファーマーズ」の農園を見学し、里芋の収穫体験を行った。環境に配慮した農業の大切さや難しさに気づき、自然環境や農業に対する意識や考え方に変化が見られた。</p>	<p>【取組の評価】 <input checked="" type="checkbox"/> 達成できた <input type="checkbox"/> ほぼ達成した <input type="checkbox"/> 達成できなかった</p> <p>【理由】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な動植物に触れ、成長や変化を継続的に観察することにより、生き物に対する愛着が生まれ、自然環境とのかかわりや自分たちにできることについて考えることができた。 ・自分たちの生活と生き物のつながり、食と農業のつながりを意識し、自分事として捉えることができた。 <p>【今後の課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観察・飼育・栽培を通して疑問に思ったことや取り組んでみたいことを調べたり、実験したりするなど、体験活動と探究活動を連動させ、学びをより深めていきたい。 <p>【次年度への引継ぎ事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・動植物や自然環境への意識を継続的に持ち続け、他教科等の学習内容と関連付けて、それぞれの発達段階に応じた多様な体験活動や探究活動を展開させていく。
		2	総合的な学習の時間 「大豆プロジェクト」 市内で農業を営む「NPO法人ふるさとファーマーズ」に指導をいただき、大豆の種まきから収穫までを行うとともに、環境に配慮した作物の栽培について学ぶ。	3年各担任	3年児童		

●写真等の記録：活動や発表の風景等取組の記録を、必要に応じて添付してください。写真等の下に、キャプションをご記入ください。個人情報の取り扱いにご注意ください。



5年総合的な学習の時間「湘南ビーチクリーンプロジェクト」の活動風景

●学校長（推進責任者）によるコメント

【学校長名】

工藤 裕一郎

【今後の方向性について】

いずれの活動においても、児童が「日常生活を見直す、問い直す」という視点が非常に大切であると考えている。これまであまり意識してこなかった身の回りの環境や生物、自分の生活や行動について、新たな視点から見つめ直し、課題を探ること。そして、課題の解決に向けて、自分ができること、してみたいことは何かを考え、行動に移すこと。試行錯誤を繰り返しながら、仲間とともに学び合い、視野を広げ、新たな課題を見出すこと。これらの学びのスパイラルが働くことにより、環境や生命、自分や周囲の生活を大切にする心情が生まれ、環境や社会の一員としての意識を持って行動する力が培われると考えている。